

## 『伊与木城跡』

伊与木城跡は、佐賀支所より国道56号を高知方面へ約3キロほど行った、旧JA伊与喜出張所の後方にある山の頂にあります。

伊与木城は一条公入国後10年目、文明10(1478)年に当時の伊与木郷土居村(現在の黒潮町伊与喜)に新築されたもので、堀川大炊助藤原信隆を京都から招いて1200石を給して初代城主としました。



## ■伊与木城の歴史

### 【二条氏時代】

土佐国古城略史によると、一条公は応仁2(1468)年中村に下向し、土佐国司として中村に御所を開き、小京都と言われる市街地をつくりました。初代一条教房は公卿中まれに見る英才で、学識深く、卓越した政治的手腕を持っていたので、幡多郡の防備を固めるために各地に築いた城は80に及び、伊与木城はそのひとつです。

### 【長宗我部時代】

天正2(1574)年長宗我部元親は一条兼定を破り、この時幡多の諸城は元親に下りました。時の城主・対馬守隆康も元親に下り、旧領安堵を命じられました。

元親が慶長4(1599)年に死亡し、その子盛親が関ヶ原の戦いに敗れ、長宗我部家は滅亡しました。

### 【徳川時代】

慶長6(1601)年、山内一豊が土佐藩主として入国し、伊与木城は佐賀城とともに山内家に城を明け渡し、徳川時代を迎え山内藩

の治世となりました。

## ■歴代城主

初代城主は藤原信隆、2代城主はその子ども対馬守家実。孫の3代城主・玄蕃隆祐の時、元親は次第に勢力を強め、元龜2(1571)年窪川を目指して仁井田に迫り、隆祐は一条房基公の命により、仁井田勢を援護して、同年10月仁井田で戦死しました。

4代城主・対馬守隆康は同年、戦死した隆祐の弔い合戦に出陣し、片坂峠で元親を迎え撃ってこれを破り、大いに武名を上げました。その後天正3(1575)年一家没落、隆康は天正5(1577)年、元親の四国征伐軍に加わり、

大功を立てたことにより恩賞加封されて、所領は1800石となりました。

5代城主・弥平次忠実、歴代城主中最も有名で、その豪弓は県外史家にまで知られています。

(弥平次のことは以降のこのシリーズに詳しく掲載します。) 忠実が若くして死に跡継ぎがなかったため、6代城主には叔父の新助実能がなりました。

7代城主・玄蕃隆直は、6代城主が在城わずかで城主を辞退した後に城主となりました。隆直は山内家より仕官を勧められましたが、子どもを仕官させ自分は引退し、初代から7代まで122年続いた伊与木城時代は幕を閉じました。

代	城主名	死亡・他年月日	死亡年令
初代	堀川大炊助藤原信隆	永正7(1510)年12月20日	63才
2代	伊与木対馬守家実	天文9(1540)年8月17日	58才
3代	伊与木玄蕃隆祐	元龜2(1571)年10月	39才
4代	伊与木対馬守隆康	天正14(1586)年	47才
5代	伊与木弥平次忠実	文禄元(1592)年3月27日	17才
6代	伊与木新助実能	慶長4(1599)年	辞退
7代	伊与木玄蕃隆直	慶長6(1601)年	引退